



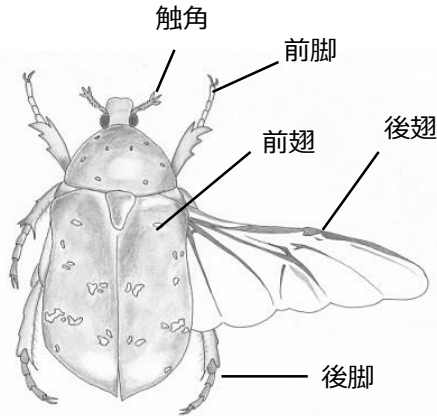


# とねり自然図鑑



動物、昆虫や花などいろいろな自然の写真を「フォトクラブメビウス」の会員方にご協力いただき、毎月発行しております。写真にちなんだ「へえ〜」という情報もお楽しみに。

【撮影した安食正敏さんのつづやき】 青い花の中に緑の光沢が美しかったので思わずシャツターを切りました。こうやってコガネムシを見るとなんだか豪華な感じがしますね。



名称：シロテンハナムグリ（白点花潜）  
 学名：*Protaetia orientalis submarumorea*  
 体長：16-25mm  
 分布：本州、四国、九州、屋久島、対馬  
 時期：4-9月  
 行動：昼行性  
 主食：クヌギ、コナラ等の樹液

## 【国によって全く印象の違う昆虫】

○表紙の写真に写っている虫はシロテンハナムグリという虫です。シロテンハナムグリといわれてもなかなかピンときませんよね。撮影者である安食さんがおっしゃったように、これはコガネムシの仲間なのです。コガネムシだと有名なのでピンとくる方も多いと思います。それは童謡があったりファール昆虫記に登場したり…ですがこの童謡とファール昆虫記、それぞれ全然違う虫の話をしているのはご存知でしょうか？

まず、日本では童謡「こがね虫」が有名ですが、実はこれはゴキブリのことを指しているといわれているのです。この童謡を作詞した野口雨情さんの生まれは今の北茨城市に位置するところです。

昔、江戸をはじめ関東ではコガネムシをカナブンと呼び、北茨城地方ではゴキブリのことをコガネムシと呼んでいました。ではなぜ、ゴキブリが童謡の中で「金持ちだ〜」と歌われているのか…ゴキブリは隙間

隙間風が吹いたり、残飯が出ないような環境では生きてはいけないので、生息するのは比較的暖かいお金持ちの家だけでした。なので、ゴキブリことコガネムシが出る家は金持ちというところからあの童謡が作られたのです。

かわって、ファール昆虫記でコガネムシ科であるスカラベ（フンコロガシ）は、糞を運ぶ様子を、太陽が天空を東から西に運ばれる姿になぞらえ、ケプリ神(自ら生まれた者)として「再生」「復活」「創造」のシンボルとして崇拝されていました。彫刻、印章、護符、装身具などにスカラベを用いられ、中でもエジプトにあるカルナック神殿の像やイギリスにある大英博物館の巨像が有名です。

日本でのコガネムシは一部地域ではゴキブリとして、そしてエジプトでは神として崇められていました。国が違えば…だけでなく、近いと思っている国内でさえこんなに印象が違うのですね。

### 「舎人図書館にある参考資料の一部を紹介↓

- ！熊田千佳慕『ファール昆虫記の虫たち1・4』 小学館
- ！ジャン・アンリ・ファール『少年少女ファール昆虫記』 偕成社
- ！赤池学『昆虫力』 小学館

毎月集めて、舎人地域学習センター・図書館のオリジナル図鑑をつくらう！